

宮沢賢治生誕120年記念企画展
宮沢賢治イーハトーブ館・宮沢賢治学会イーハトーブセンター主催事業
宮沢賢治記念館連携事業

イーハトーブの石

（「石」の字は賢治自筆のコピー）



石英



オパール



正長石双晶



普通輝石



透緑閃石



角閃石



藍閃石



黒雲母



白雲母



緑泥石



滑石



ざくろ石



緑簾石



電気石



藍晶石



銅玉



磁鉄鉱



方解石



蛍石



石墨

宮沢賢治が学んだ『クランツ鉱物標本』（盛岡高等農林学校所蔵）より作品に登場する主な鉱物

「イーハトーブの石」に ようこそ！



宮沢賢治は、子供のころから「石ッコ賢さん」とあだ名されるほど石の蒐集に熱中し、盛岡中学時代には暇があると付近の野山や川にハンマーを持って出かける石好きでした。長じて盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部、以下「盛岡高農」）地質及土壤教室に進学し、先進の地質学や土壤学を学び、野外調査にも従事し、各種の地質・土性図をまとめました。その後も賢治は、花巻農学校教員時代、羅須地人協会時代、東北碎石工場技師時代と、生涯を通じて地質・土壤学の知識を駆使して地域の人々、とくに農民の幸せを願う活動を続けました。

また、残された多くの童話・詩・短歌・俳句などの文学作品に地質用語や鉱物・宝石、岩石を数多く登場させ、作品を豊かに彩りました。メモなども合わせると70種以上の鉱物、70種ほどの岩石、50種ほどの土壤、10種以上の化石（古生物）の名前が登場し、あるいは擬人化されたそれらのキャラクターが活躍する作品世界は実に独自性の高いものです。それだけに実物を見たことがない人には難しく感じることもあるかと思います。

今回の展示は、宮沢賢治記念館と宮沢賢治イーハトーブ館が連携して、賢治が学んだ地質図類や書籍類も含めて宮沢賢治の石の世界を多面的にご紹介しようとするものです。とくに、人や動植物と同じく石にも個性があることをご覧ください。同じ種類の石でも色、濃淡、触感、形態、大きさの違いは様々です。そこで1種ごとにできるだけ見かけの異なる標本を並べて展示し、パネル写真と合わせてそれらの違いがわかるように試みました。

さて、本パンフレットでは以上の展示をもとに新たな写真も加え、石の多様性をご紹介します。賢治の魅力あふれる石の世界を御一緒する縁になれば幸いです。

なお、以下の諸団体等には直接間接にご支援ご協力を賜りました。ここに記して深く謝意を表する次第です。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所地質調査総合センター及び同地質標本館

国立大学法人 岩手大学農学部農業教育資料館及び同図書館

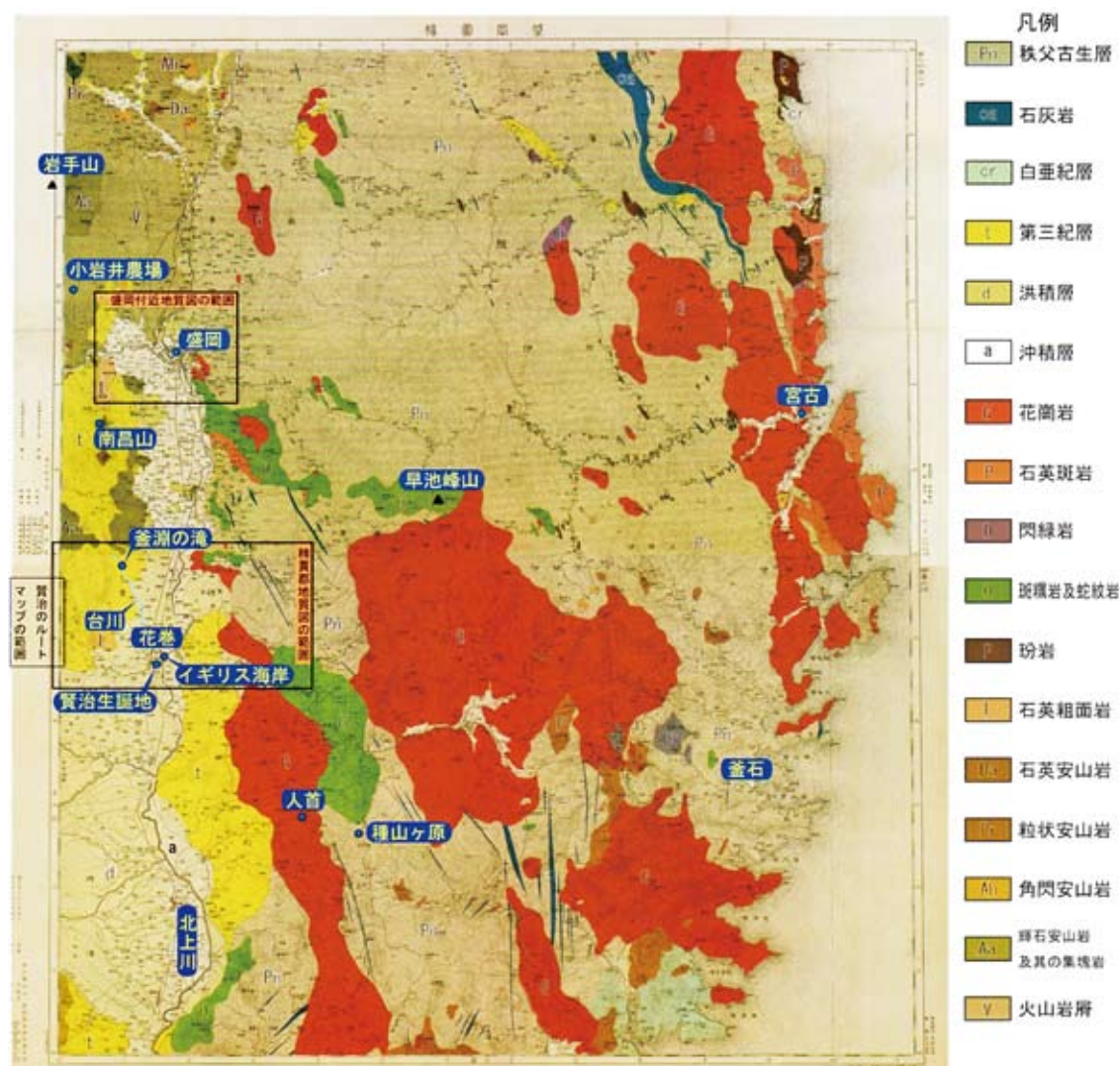
一関市立 石と賢治のミュージアム

株式会社 愛智出版

株式会社 東北鉄興社

■ 賢治が学んだイーハトーブの地質図

賢治は、盛岡高農で様々な地質試資料を学びましたが、その内の1つが以下の地質図です。地質調査所発行の1/20万地質図幅で、上半部『盛岡』（1915）、下半部『釜石』（1903）を合わせ、地名等を加筆したものです（地質標本館編（2010）及び加藤他（2012）より）。



早池峰山はじめ緑色の部分は賢治が好んだ蛇紋岩（現在の知見では古生代オルドビス紀ですが、賢治の時代には中生代ジュラ紀と考えられていました）です。

赤色部分は、おもに中生代白亜紀の花崗岩類です。

灰色部分の「秩父古生層」（藍色部分の石灰岩を含む）は、賢治らが巡検で訪れた秩父地方に模式的に分布する古生代後期の我が国の代表的な非変成堆積岩類（当時の見解）です。

黄色部分の第三紀層は Tertiary（第三紀）の地層です。賢治作詞の「イギリス海岸の歌」に「Tertiary the younger Tertiary the younger / Tertiary the younger Mud-stone」とあります。岩手山付近の茶色部分は、第四紀の火山岩類です。

■ イシたちのざわめき（地学童話の最高傑作『櫛ノ木大学士の野宿』第二夜より）



造岩鉱物らの晶出順序をめぐる言い争い（どちらが先に生まれたか）



造岩鉱物らの風化・変質を病気になぞらえた物言い（例：緑泥病）